

## 6月の天候

2022年（令和4年）6月の日本の天候は、東・西日本の気温はかなり高く、下旬は記録的な高温となりました。西日本太平洋側の降水量はかなり少なく、東日本日本海側と西日本太平洋側の日照時間はかなり多くなりました。北日本日本海側と北日本太平洋側の降水量はかなり多く、沖縄・奄美の降水量は多くなりました。

2022年（令和4年）6月の天候の特徴は以下のとおりです。

○東・西日本の気温はかなり高く、下旬は記録的な高温となりました  
月の前半はオホーツク海高気圧の影響などで冷たい空気が流れ込み、全国的に気温が平年を下回りましたが、月の後半は太平洋高気圧が強まり暖かい空気が流れ込みやすかったため、月平均気温は東・西日本でかなり高くなりました。特に下旬は東・西日本で記録的な高温となりました。

○西日本太平洋側の降水量はかなり少なく、東日本日本海側と西日本太平洋側の日照時間はかなり多くなりました  
本州付近は低気圧や梅雨前線の影響を受けにくかったため、西日本太平洋側の月降水量はかなり少なく、東日本日本海側と西日本太平洋側の月間日照時間はかなり多くなりました。下旬には太平洋高気圧の北への張り出しが強まり、梅雨前線が北上したため、東・西日本の各地と東北南部では記録的に早く梅雨明けしたとみられます（速報値）。

○北日本日本海側と北日本太平洋側の降水量はかなり多く、沖縄・奄美の降水量は多くなりました  
気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすかったため、北日本日本海側と北日本太平洋側の月降水量はかなり多くなりました。また、梅雨前線が沖縄付近に停滞することが多かったため、沖縄・奄美の月降水量は多くなりました。

別紙（概況、統計値等）[PDF形式:1.24MB]

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko202206\\_besshi.pdf](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko202206_besshi.pdf)

問合せ先：大気海洋部 観測整備計画課 担当 村井(観測値や記録について)  
電話 03-6758-3900 (内線 4268)  
大気海洋部 気候情報課 担当 楳田(天候の解説について)  
電話 03-6758-3900 (内線 4546)